

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

呉中央中学校区 校番13 呉中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	③ 生ききる根っこを育てる「豊かな学び」の創造	③ 「主体的、対話的で深い学び」の実現と基礎・基本の定着を図る。	授業の中で「思考し表現している」という項目に肯定的な回答をした生徒の割合は92.1%で、目標の90%を上回っている。また、昨年度の課題であった学年ごとの差は、今回の結果では見られなかった。 総合的な学習の時間についての「社会や身近な人のためにできることをしている」というアンケート項目に対する肯定的な回答の割合は95.0%で、目標値の85%を上回っている。昨年度からの取組の成果が現れているものと思われる。 「学力調査・定期試験(国・数・英)における通過率30%以上の生徒の割合」は93.5%で、目標値の90%を上回っている。今後、更に数値の向上を目指したい。 「各学年の家庭学習目標時間の達成率の割合」は75.8%で、目標の65%を上回った。昨年の12月が55%であったので大きく改善されている。	学園授業スタイルに基づいた探究的な活動や思考過程の工夫による授業改善をさらに進めるため、授業で思考・表現する場面を意図的に設定していく。 学園フェスタに向けての取組等を通して、地域に貢献しているという自尊感情や実践力をさらに高めていきたい。 2学期から始まるQubana(タブレット教材)を効果的に活用するなど、各自の学力に応じた最適な学習ができるよう支援していきたい。 連絡ノート(スタンダード)や試験計画表等を活用して、教師が生徒の家庭学習の進捗を把握し、適切な指導を行っていく。
**	③ 生ききる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造	③ 「自己指導能力」を高める。	「あいさつ」「返事」「時間」「掃除」に関するアンケートにおいて、肯定的な評価をした生徒の割合は、全てにおいて95%を上回っており、目標を達成している。生活目標として掲げたこれらの項目において、確実に習慣化されてきていることが読み取れる。中でも「返事」をすること、「時刻」を守ることに対しては、ほとんどの生徒の中に、当たり前のこととして定着しているといえる。 「自分には良いところがある」と思っている生徒の割合は87.4%で、目標値の90%には届かなかったが、昨年度の最後の調査が86%であることから、自己有用感の高まりが見てとれる。各種行事の再開や、個人面談の増加など、昨年来取り組まれてきたことが実を結んできているのだと思われる。	基本的な生活習慣に関わる指導は、引き続き行っていくことで、習慣化されている現状は維持できると考えられる。また、個人面談の機会を確保する取り組みは継続し、生徒の情報を細やかに受け取る体制を維持する。このことで、教員と生徒の円滑な関係を保ち、生徒が学校生活に主体的に参加しようとする意欲が保たれると考える。 さらに、今年度は校外学習が復活したり、呉中フェス等の新規行事が開催されたりするなど、生徒が活躍できる場が増えるので、それを良い機会として自尊感情を高める機会とする。
*	③ 生ききる根っこを育てる「しなやかな体」の育成	③ 基本的生活習慣の定着と体力・運動能力の向上を図る。	三点固定に関して、前年度より5ポイント数値が向上したものの、目標値には届かなかった。家庭学習をする生徒の割合が増えていることが要因として考えられる。また、メディアコントロールが上手くいっている生徒と上手くいっていない生徒が二極化して固定されているものと思われる。 前年度よりも記録が伸びた生徒は、50m走では男子93%、女子78%であった。20mシャトルランでは、男子79%、女子74%であった。昨年に比べ、50m走の結果が向上した生徒の割合が高い。特に男子は昼休憩に外遊びをする生徒が多いためと思われる。	スタンダードに記入する三点に関する記述を、担当が細やかにチェックし、そこにコメントを入れるなど地道な取り組みが求められる。また養護教諭からのメディアコントロールに関する健康相談もうまく活用しながら、状況の把握とそれに対する指導を連動させていく。 昼休憩でのボール貸出やクラスマッチの実施などで、運動する機会を増やしていく。体育の授業や部活動においても運動強度を意識し、走トレーニングも継続的にしていく。
業務改善	③ 業務改善を進め、元気で明るい職場を実現する	③ 生徒と向き合う時間を確保する。 ③ 長時間勤務の縮減を図る。	生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合は77%と目標値の80%には至らなかったが、昨年度の割合が69%であったので、かなり改善しているといえる。 時間外勤務が45時間以下の教職員の割合は月ごとの変化を見ると、4月は50%であったが、7月は70%と目標を達成できている。	毎日クラスの全員と会話する取組(スタンダードの日記での会話も含める)と、毎朝教員が教室で生徒を出迎える取組(職員朝礼の廃止)の成果と考えられる。今後も学校全体での取組を継続していく。 退校目標時間を早目に設定しようという雰囲気はできているので、引き続き職員全体が計画的かつ効率的に働けるようにチームで取り組む。